

「使用上の注意」改訂のお知らせ

経口抗真菌剤

処方箋医薬品^{注)}

イトラコナゾール錠

イトラコナゾール錠 50mg 「日医工」

イトラコナゾール錠 100mg 「日医工」

製造販売元 日 医 工 株 式 会 社
富 山 市 総 曲 輪 1 丁 目 6 番 21

注) 注意－医師等の処方箋により使用すること

この度、上記製品において、「使用上の注意」の一部を改訂（下線部）しましたので、お知らせ申し上げます。今後の弊社製品のご使用に際しましては、下記内容をご高覧くださいますようお願い申し上げます。

＜改訂内容＞（：自主改訂、~~~~~：削除箇所）

改訂後	改訂前
2. 禁忌（次の患者には投与しないこと） 2.1 ピモジド、キニジン、ベプリジル、トリアゾラム、シンバスタチン、アゼルニジピン、アゼルニジピン・オルメサルタン メドキシミル、ニソルジピン、エルゴタミン・カフェイン・イソプロピルアンチピリン、ジヒドロエルゴタミン、エルゴメトリン、メチルエルゴメトリン、バルデナフィル、エブレレノン、プロナンセリン、シルデナフィル（レバチオ）、タダラフィル（アドシルカ）、スボレキサント、<u>ボルノレキサント水和物、イブルチニブ、チカグレロル、ロミタピド、イバブラジン、ベネトクラクス（再発又は難治性の慢性リンパ性白血病（小リンパ球性リンパ腫を含む）の用量漸増期）、ルラシドン塩酸塩、アナモレリン塩酸塩、マバカムテン、フィネレノン、ボクロスポリン、イサブコナゾニウム硫酸塩、ロナファルニブ、パロパロテン、アリスキレン、ダビガトラン、リバーロキサバンを投与中の患者</u> 2.2～2.5 省略（変更なし）	2. 禁忌（次の患者には投与しないこと） 2.1 ピモジド、キニジン、ベプリジル、トリアゾラム、シンバスタチン、アゼルニジピン、アゼルニジピン・オルメサルタン メドキシミル、ニソルジピン、エルゴタミン・カフェイン・イソプロピルアンチピリン、ジヒドロエルゴタミン、エルゴメトリン、メチルエルゴメトリン、バルデナフィル、エブレレノン、プロナンセリン、シルデナフィル（レバチオ）、タダラフィル（アドシルカ）、スボレキサント、イブルチニブ、チカグレロル、ロミタピド、イバブラジン、ベネトクラクス（再発又は難治性の慢性リンパ性白血病（小リンパ球性リンパ腫を含む）の用量漸増期）、ルラシドン塩酸塩、アナモレリン塩酸塩、フィネレノン、ボクロスポリン、イサブコナゾニウム硫酸塩、アリスキレン、ダビガトラン、リバーロキサバンを投与中の患者 2.2～2.5 省略
9. 特定の背景を有する患者に関する注意 9.4 生殖能を有する者 妊娠する可能性のある女性には、本剤投与中及び<u>最終投与後1ヵ月間において避妊する必要性及び適切な避妊法について説明すること。</u>	9. 特定の背景を有する患者に関する注意 9.4 生殖能を有する者 妊娠する可能性のある女性には、本剤投与中及び投与終了後一定期間は、<u>適切な避妊を行うよう指導すること。</u>

<改訂内容> (: 自主改訂)

改訂後		
10. 相互作用		
省略（変更なし）		
10.1 併用禁忌（併用しないこと）		
薬剤名等	臨床症状・措置方法	機序・危険因子
省略（変更なし）		
スボレキサント ベルソムラ	省略（変更なし）	本剤のCYP3A4に対する阻害作用により、これらの薬剤の代謝が阻害される。
ボルノレキサント水和物 ボルズィ	ボルノレキサントの血漿中濃度が顕著に上昇し、作用を著しく増強させるおそれがある。	
イブルチニブ イムブルビカ	省略（変更なし）	
省略（変更なし）		
アナモレリン塩酸塩 エドルミズ	省略	
マバカムテン カムザイオス	マバカムテンの血中濃度が上昇し、副作用が増強され、収縮機能障害による心不全のリスクが高まるおそれがある。	
フィネレノン ケレンディア	省略（変更なし）	
省略（変更なし）		
イサブコナゾニウム硫酸塩 クレセンバ	省略（変更なし）	
ロナファルニブ ゾキンヴィ	ロナファルニブの血中濃度が著しく上昇し、副作用が増強するおそれがある。	
パロパロテン ソホノス	パロパロテンの血中濃度が上昇し、副作用が増強するおそれがある。	
アリスキレン ラジレス	省略（変更なし）	
省略（変更なし）		

改訂前		
10. 相互作用		
省略		
10.1 併用禁忌（併用しないこと）		
薬剤名等	臨床症状・措置方法	機序・危険因子
省略		
スボレキサント ベルソムラ	省略	本剤のCYP3A4に対する阻害作用により、これらの薬剤の代謝が阻害される。
←追記		
イブルチニブ イムブルビカ	省略	
省略		
アナモレリン塩酸塩 エドルミズ	省略	
←追記		
フィネレノン ケレンディア	省略	
省略		
イサブコナゾニウム硫酸塩 クレセンバ	省略	
←追記		
←追記		
アリスキレン ラジレス	省略	
省略		

<改訂理由>

- ・相互作用相手薬の「使用上の注意」との整合を図るため、2. 禁忌及び 10.1 併用禁忌に「ボルノレキサント水和物、マバカムテン、ロナファルニブ、パロパロテン」を追記しました。
- ・「医薬品の投与に関連する避妊の必要性等に関するガイダンスについて」（令和5年2月16日付、薬生薬審発／薬生安発 0216 第1号）に基づき、9.4 生殖能を有する者の避妊期間及び妊娠する可能性のある女性に対する指導を記載整備しました。

<GS1 バーコード>

最新の注意事項等情報につきましては、添付文書閲覧アプリ「添文ナビ^{てんぶん}®」で下記 GS1 バーコードを読み取ることで、スマートフォンやタブレット端末でご覧いただけます。

なお、「添文ナビ^{てんぶん}®」アプリにつきましては、ご使用になられる端末に合わせて「App Store」または「Google Play」よりダウンロードしてください。

イトラコナゾール錠「日医工」



今回の改訂内容につきましては、日本製薬団体連合会発行の「DRUG SAFETY UPDATE (DSU) 医薬品安全対策情報 No.348」(2026 年 9 月発行)に掲載の予定です。
また、改訂後の電子化された添付文書は医薬品医療機器総合機構ホームページ (<https://www.pmda.go.jp/>)
ならびに弊社ホームページ「医療関係者の皆さまへ」(<https://www.nichiiko.co.jp/medicine/>)に掲載されます。